

# 刺すハチ・刺さぬハチ

三木 順一

腕白であった少年時代、アシナガバチの巣をつついて刺された経験は殆んどの方はお持ちのことと思う。巣に悪戯をして、襲って来るのは、集団で生活しているスズメバチやアシナガバチの類で、単独造巢のハナバチ、クマバチ、ジガバチなどは襲撃して来ることはない。襲撃して来るハチでも花を訪れている時や、クヌギの幹でカブトムシと共に樹液を吸っている時などは、つついても飛びかかって来ることはない。飼育されている洋種ミツバチは、取扱いが悪かったり、粗暴な群は飼主をよく刺したり、附近の人を刺して、困ることがある。その点野性の日本種ミツバチは殆んど人を襲うことはない。ミツバチは刺すと針に逆トゲがあって、こちらの皮膚に毒素と共に残る。よく針が抜けたハチはすぐ死ぬと書いてある本があるが、そんな事はなく又飛び去る。寿命は短いと思われる。

ハチに刺された痛さや腫れ方は個人差があって、7・8月はよく外来で治療を求められる。事故で刺される方は全身、所を選ばないが、巣に悪戯した時は殆んど顔面である。ハチはよく人の顔の部分を知っているらしい。巣をつついて追いかけられた時、顔をかくして地面に伏せていると、背中を這っていても刺さないものである。手で払うと、逆によけい襲撃される。痛さや腫れの大きさは、スズメバチ、キイロスズメバチ、ミツバチ、アシナガバチの順であろうか。日本種ミツバチなどは蚊の少し大きい程度、ハナバチ、クマバチ、ジガバチなど針の通らないものがあるし、刺してもイバラのトゲ程度のものである。人によってはハチに刺されてショック死する人もありニュースとなる。やはり顔の真中を刺されると一番ひどく、気絶した人も診た事がある。私はハチに強くて、一度に最も沢山刺されたのは30匹あまりのミツバチやアシナガバチの時で、少々痛かったが全く腫れず、1時間ばかり局所が熱かっただけ。それでも

スズメバチに2匹顔面をやられた時は30分ばかり仕事が出来なかったが、全く腫れず、1時間で全く跡片もなくなった。

この刺すハチは殆んどが働バチで、女王蜂は殆んど襲って来ることはない。10月中旬から11月上旬にかけてスズメバチ、アシナガバチ類は次々と雄が生れる。この雄バチは外見はよく似ているが、花を訪れる事はないし、動作が異なる。捕えて観察すれば雄である事が判るが、これは刺針をもたない。刺す動作はするが、全く刺さらない。これを塀の上などで日向ぼっこしている時、素手で捕えてみせると、殆んどの方が吃驚仰天なさる。手渡そうと進呈しても、全く受け取ってもらえない。皆様一寸悪戯なさって、雄バチは刺針をもたない事を一般に教育して戴きたい。



## 私とアサギマダラ

市川 義彦

もう40年も昔のことですが、故郷の信州で蝶にとりつかれ、小学校から帰るとカバンを投げ出し、捕虫網を持って近くの山をかけ廻っていました。

今でも、ひらひらと舞っているアサギマダラを捕ったときの印象が残っています。

その後、戦争で中断していましたが、私もこの齢になって殺生も好みませんので、蝶の飼育を皆様の御指導で始めたいと思っています。よろしくお願いします。